



金目川水系流域ネットワーク

世話人会

せせらぎ通信

活動の記録 文責 柳川三郎

思いも新たに

夏休み金目川生き物観察会

7月21日(日) 最高気温 28℃

●指導者

神奈川県環境科学センター 齋藤部長
東海大学北野先生と大学生 26 名
金目川ネット 16 名
ユースボランティア
平塚学園高校生4名と
高校生1名

明るい、そしてきびきびしている。

●参加 小学生と保護者 90 名

●金目川の河原の雑草が少ない。
ヨシノボリ・ボウスハゼ・モクスガニ
ウナギ・アユ・オイカワ・テナガエビ等

夢中になって、そして熱心に観察したり
生き物にタッチングして大喜びです。

安全を第一に自然のなかでの
体験的学びは笑顔の輪がいっぱいです。

横浜ゴム(株)の鈴川(宮下橋・大畑橋)の生物調査

活動をともしました。
6月17日(月)と
8月26日(月)です。
社をあげて、水を大切にする
生物多様性の事前調査です。
→ 適正高いCSRです。



開会式直前にぎやかな皆々



川の中の生き物観察の仕方を丹念に指導中



生態調査 鈴川でのウナギ



生物多様性調査 鈴川河原
南アメリカからの帰化植物
マルバルコウソウ

強大 18 号台風前日の葛葉川生き物観察会

9月14日(土) 最高気温 27℃

●指導者 神奈川県環境科学センター 齋藤部長
葛葉の家えのきの会 金目川ネット

●参加 秦野市小学生と保護者 28 名

●今回の特徴 サワガニいっぱい、子持ちも、そして
大きいサワガニも。カジカガエル、ウグイ等

●危険 スズメバチが巣を作ってしまった。
ロープをしてそばに寄らないようにした。

●水が冷たい、18℃だ、あちこちで湧水をしています。

●サワガニの絵描き
教室で、一生懸命
に頑張る上手に
かけました。



つれるかなーザリガニくん



岩本氏労作の得難い
金目川水系の立体模型

ひらつか環境フェアでトップの集客

●「つれるかなーザリガニくん」小学生はみんな必死です
がなかなかつれないところが妙味です。

釣り人は途切れることなく満杯でした。

●「金目川流域の自然立体模型」(作 岩本)を読み解く。
通る人に受け、労作をほめる言葉が続いて身近な自然を
立体的に見ることができてひとつの学びができました。

本当にうだるあつさの

真夏の金目川水系水温調査

- 8月11日(日) 最高気温 34℃
- 66の橋での調査も9年継続です。
- 今年は水温が異常に高い
水温 30℃を超える地点が 31ヶ所もありました。



うだる暑さの蓬萊橋
外気温は 40.3℃



たくさん遡上した
いきいきした
座禅川のアユ

座禅川生き物観察会

- 7月30日(火) 最高気温 30℃
- 指導者 神奈川県環境科学センター 齋藤部長 協力(金目川ネット 柳川・安池・高津)
- 参加 土屋小学生・土沢中学生・幼稚園児 26名
- 指導の醍醐味 小さい子供たちが、そばに来てどうやってとるのか熱心に聞いてきました。アミを下流に深くおいて上流から足で追い込むことと岸辺のを草むららを狙うことを教えると、みんなが実行してニコニコしている様子は喜びです。

アユがたくさんとれたのにびっくりしました。立派な姿のアユです。

私はアミで5回ともアユをとりました。農業関係者が堰を止めてくれたり、安全の見回りをしていただいた雰囲気はありがたい限りです。

座禅川 (ぎぜんかわ)

安池春敏

平塚市の北西部にある金目川の支流で全長わずか3.2kmの短い川です。

金目川のような天井川とは異なり、何千年もの昔、水の流れにより地面を少しずつ削り深くなつたと考えています。

この川に拘るようになったのは、実家の田んぼに家を建てたことから始まった。その当時は周りの環境に関心がなかった。10数年がたち、少し時間ができたこともあり夕涼みに外へ出てみた。川面を見ていると鯉が群れている。昔はウナギやナマスやオイカワがいたが鯉ばかりだ。変わったものだと思った。次の瞬間、子供のころに遊んだ川と違うことに気がついた。よく見ると整然としている。地元の人々に聞いてみたところ、昭和48年ころ拡張工事が行われたことが分かった。理由は水害がたびたび発生して被害が大きくなつたらしい。水源近くが開発され、ゴルフ場が二つもできて森林がなくなり、宅地開発も進んだようだ。何年ころかを確認したところ昭和40年から45年ぐらいつと聞き、何か関係があるように思われる源流部へいつこみだ。

源流はいくつもあり、一番水量の多い水源は県道77号線より左側にある尼ヶ滝で二段だったと記憶していたが崩れて滝の様相をなしていない。愛宕山から流れる黒木沢は篠竹が生い茂り確認はできなかった。昔とあまりかわつていなかったのはお滝さんであった。正式には駒ヶ滝といい、名の由来は熊野神社の例大祭に行われる流鏝馬の馬を清めたことからこの名がついたとされている。このほかにも幾つもの水源があるが開発が進みわからなくなっている。



座禅川 水源 駒ヶ滝

川の流れを眺めながら下つて来るといくつもの橋が架けられている。50年前に比べると立派な橋である。昔からあった橋は芳盛橋、脇橋、門前橋、暮打橋、観音橋、寺分大橋ぐらいいであった。門前橋は丸太二本架けてある丸太橋であった。暮打橋は丸太一本だったように記憶している。小学校に通うとき落ちたこともあった。

座禅川の由来は芳盛寺や大乘院など寺が多くの僧侶たちの座禅や水行の修行を行ったことからついたといわれている。土屋三郎宗遠の道場寺であった大乘院を守るために、北に持宝院、東に正福寺、南に宗憲寺を配していた。宗憲寺の門前にかげられたのが門前橋であります。

土屋は昔「土家」と書いたともいわれている。源水の「横穴古墳」が代表的であるが、ほかに「横穴古墳」があり、横穴を住まいとしていた、いつの時代からか土屋と書くようになったとされています。

金目川の水循環の解明から 世界の水循環を 描き出す挑戦

西岡哲

金目川から世界の水循環へ
一産学官連携ジャーナルの紹介

もう一つの金目川を コンピュータ上に作る

私たちの住んでいる金目川水は、どこからやってきているのかを知りたいと思いませんか？

川の水は地下水に支えられているので、雨がしばらく降らなくても清らかな水をたたえています。

川の水は見ることはできますが、地下水の流れは見えません。

水循環のシミュレーションは、見えない地下水の動きも可視化することができます。

一例として、図に関東・中部エリアの地表水と地下水流動を示します。

現在の大きな水系と類似した形で、地下水と河川のネットワークが形成され、金目川の地下水は現在の花水川河口方向でなく相模川に向かって見えて取れます。

また、現在利根川の表流水は、江戸時代からの東遷事業により銚子から太平洋にそそいでいますが、地下水は利根川本来の流路にしたがい東京湾に向かって見えて取れますなど、水循環を理解するうえで興味深い点が見えてきています。

水循環シミュレーションの活用

2011年3月11日の東日本大震災による津波は様々な意味でリスクに対する備えの再考を迫るものとなりました。

平塚市は津波ハザードマップを作成し、市民に注意を喚起してきています。(右上へ)



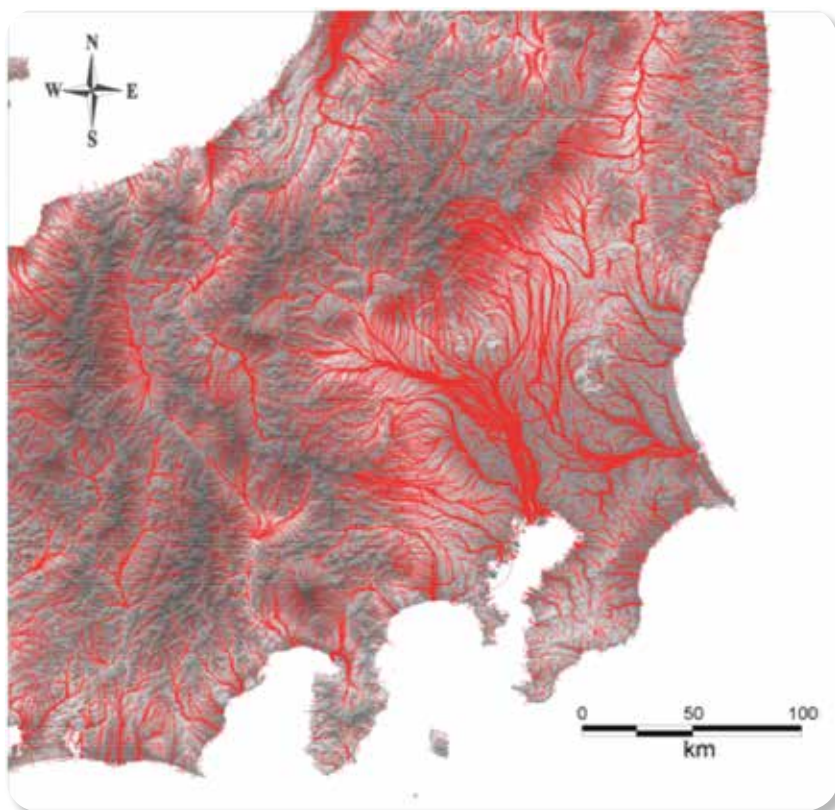
土屋三郎宗遠の墓所

(左下より)

洪水に対しても同様で、金目川中流域では豪雨により堤防が損壊し、もう少し雨が降り続ければ洪水が起こったかもしれないということが最近2度ありました。

自然は必ずしも予測のできない動きをしますし、現象の起きる時間規模なども予測は不可能なものが多くあります。

そこでコンピュータ上の自然を利用すると、様々な条件を与え将来起こり得る環境変化や災害の位置・規模を予測できるので、住環境の快適性・安全性に役立てたいと考えています。



関東・中部エリアの地下水流動

金目川のアユ

露木正巳

六月一日、アユの解禁日を迎えると、金目川には長い竿で釣りをする人や投網をうつ人たちの姿が見られます。地元の人もありますが、横浜や川崎の方から来る人もけっこういます。簡易テントを持って前の晩から来て、六月一日の早朝から釣りを始めるといふ人に会ったこともあり。金目川は知る人ぞ知るアユ漁の穴場だと言ふ人もいます。

金目川の表面を流れる水は、ほぼ百パーセント農業用水として使われています。したがって漁業権の設定はなく、稚魚の放流もないので全て天然のアユです。

アユの生活歴と人間の生産活動

アユは川と海を行き来する回遊魚です。農業用水として利用される金目川では、人間の生産活動（農業）とアユの生活歴とがうまく合っていることに驚きます。

アユは秋になると下流にくだつて産卵します。金目川では、下流域にある鈴川、洪田川との合流点付近が産卵場所だと言われています。孵化した稚魚は川をくだり、海に出て冬を過ごします。そして、春になると川に戻ってきます。

金目川には、金目地区の下流、金田地区との境付近に飯島堰があります。金目川の左右にあつたいくつかの堰を統合して一九五二年に造られた金目川で最も大きい堰です。水田耕作の期間中、金目川の水はここで堰止められ、下流は干上がってしまします。広大な水田を潤すには、川を流れる水がなくなるほどの大量の水を必要とします。

飯島堰からの取水が始まるのは六月はじめです。春になり海から金目川に遡上を始めたアユは、そのころまでには飯島堰を越えて金目付近に達しています。下流にくだる頃には、水田への引水も終わり。そして、秋になり産卵の時期を迎えて飯島堰も開いているので自由に通過できます。

水田への引水という人間の生産活動とアユの生活歴がうまく合っていたからこそ、金目川にはたくさんアユが生息し、釣りや投網を楽しむことができるのです。

【写真】土屋橋付近で投網を打つ人
(七月七日)



「湘南里川づくり」取組みのご紹介！ ～ イベントのご案内 ～



“湘南里川（さとがわ）づくり”とは、湘南地域のふるさとの川である金目川水系の河川等を、次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、市民主体による清掃、植栽、生き物観察会などの河川等の保全・活用を、流域全体に広げていく取組みです。

みんなの会の構成員である「湘南里川見守り隊」は環境関連イベントを実施しております。みんなの会ホームページで紹介しておりますので、ぜひご参加ください。

また、みんなの会としても今秋は鶴巻市民ふれあい祭りをはじめとして地域のイベントに出展する予定です。出展イベントにお越しになる際はぜひお立ち寄りください。

- 見守り隊のイベント：みんなの会ホームページ内「催しものご案内」
<http://www.satokawa.com/moyooshi.cgi>
- みんなの会出展イベント：みんなの会ホームページ内「みんなの会からのお知らせ」
http://www.satokawa.com/about_oshirase.cgi

※今後の情報は決定次第順次更新していきます。



湘南里川づくりに一緒に取り組む「湘南里川見守り隊」を募集しています。詳細は、ホームページで！

里川づくり

検索

●お問い合わせ先

湘南里川づくりみんなの会事務局

神奈川県湘南地域県政総合センター 企画調整課

電話 (0463) 22-9186 (ダイヤルイン)

ホームページアドレス <http://www.satokawa.com/>